

昭和五十二年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都千代田区飯田橋4の4の8朝日ビル401号室 電話(03)261-7079
振替 東京0158431 労金 東京労金本店No50234

購読料 月額300円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

プロレタリアート独裁と職場闘争……………2

◇向坂逸郎氏に聞く◇
マルクス・レーニン主義とは何か……………3

大内力君はマルクス主義者ではない 改良主義の二つの傾向
資本主義の基本矛盾 自由と必然 古いことをいう大内君
「窮乏化法則」について 「窮乏化法則」と社会主義 ユ
ーロ Kommunismus はミニスカートみたいなもの 「プロ独裁」
とブルジョアジー 「プロ独裁」は階級闘争の必然的結果

「中産階級化」という名の思想攻撃……………11

資料 高沢寅男氏 (東京五区) 非推せん の経過と

全電通の対応……………13

緊急号外「道」批判者たちへの反批判発行のおしらせ……………16
(二〇月一日発行)

旬刊 社会通信

NO.69

一九七九年一月二一日

一九七九年一月二一日

(毎月二日・二二日・三二日三回発行)

■巻頭言■

プロレタリアート独裁と職場闘争

先日、用事があって法務局N出張所に行ったところ、待合所正面の柱に、事務服を来た美しい女性の写真のポスターがはってあった。

何気なく見るとそれには、「いい仕事をして」というスローガンが書いてあって、その下に「国公労連」とあった。

たしか公務員には勤務評定という制度があって、定期昇給に差別をつけられるようになってくるはずである。労働者が「いい仕事をしよう」といつて競争して努力することになったら如何なことに相成るであろうか。官庁というところは、人民にサービス（いい仕事をしよう）にも予算がない、人手が足りないで、結核は労働強化で大企業サービスしかできないしくみになっている。仕事のおそい労働者や病弱者は居たたまれないであろう。資本主義的労働の本質は監視労働で競争させられているということであって、これは官庁も民間企業も変りはない。仕事よりも生命と権利を守ることを優先すべきだと主張し実践する者は「生産阻害者」、「勤務成績不良」というレッテルをはられ差別攻撃をうける。

労働者が団結して差別、分断、競争を排除し職場の主導権を握り、権力や職制の力による労働者支配を打ち破って、勤労人民と共同闘争をたかめるために、「いい仕事」をしよう、というのであれば話はわかる。

しばらく前の朝日新聞の対談記事で、共産党の不破書記長は、「政権の交替は、負けてはならないが、有り得ることである」と答えプロレタリアートの独裁ということ是否定している。

たとえば職場闘争でがんばって労働者が職場の主人公たる体制を確立できたとする、その労働者が再び元の職制が支配する職場にもどることを当然だと思っただろうか。「階級闘争は必然的にプロレタリアートの独裁に導く」というマルクスの言は、職場闘争をたたかった労働者ならば当りまえのこととしてすなおにうけとめることができる。

階級政党的革命路線の動揺がどのように労働運動にあらわれるか。前述のポスターに見られる例はその一つではないだろうか。「プロ独裁」の理論と職場闘争を直結するわけではないが、ほんきで職場闘争を組織する構えのない人、又はやったこともない人がどうも「プロ独裁」の理論がわからぬらしい。「日本における社会主義への道」にあらぬデマ攻撃を加えている学者グループなどはその見本である。

企業別に分断されている日本の労働組合の弱点をめぐって独占資本と自民党政府は今こそぞとばかりつつこんできている。職場闘争で階級対立を自覚できた労働者でなければ統一闘争に立ち上ってこれを反撃することは困難である。

(G)

◇向坂逸郎氏に聞く◇

マルクス・レーニン主義とは何か

堀元社会党政審会長らが主催する労働者自主管理研究会議が、八月六日、『日本における社会主義への道』を全面的に否定する文書を、社会主義理論センターに提出したことは読者もよくご存じのことであろう。この文書の特徴は、大学の先生らしく『道』の文体論にこと寄せて、『道』の立却する基本思想、科学的社会主義を真向から否定していることである。われわれはこの文書への反批判のための号外『「道」批判者たちへの反批判』をすでに発行しているが、ここでは号外第一章から、『マルクス・レーニン主義とは何か——向坂逸郎氏に聞く』を転載しておきたい。

大内氏たちの反批判とマルクシズムの世界観の展開について、よりくわしくは号外を参照していただきたい(定価五〇〇円、郵送費含)。

大内力君はマルクス主義者ではない

問 ご承知のように、自主管理研究会議に集う大内力(信州大学教授)、新田俊三(東洋大学教授)氏が、社会党の綱領的文書『日本における社会主義への道』(以下『道』と略記)を全面的に否定する文書を発表しました。この文書の特徴は、「修正されたマルクス主義」の立場から、『道』の精神をなしている科学的社会主義の理論を全面的に否定していることです。

向坂 大内君や新田君が『資本論』をしばしばもちだすことが話しを少しわかりにくくしているようだが、大内君も新田君もマルクス主義者ではありません。社会党員でもない人が党外から社会党を悪くしようとしているが、社会党を愛しているならばよく信用してくれた方がいい(笑)。ばくが信用しているのは、マルクス、エンゲルス、レーニンの三人だけです。彼らは死んでもう変わりようがないから信用できる(笑)。

大内君や新田君を信用する人がいるんですか。だれも信用しないでしよう(笑)。

問 おっしゃるとおりです(笑)。

向坂 彼らがどんなことをいったって、彼らの没落は必然的です。「窮乏化法則」は、資本主義の基本的敵対的矛盾の発現形態であり、資本主義に本質的なものです。資本家階級とその弁代者たちが、その脳細胞をしばって、この法則の存在を否定しようとするのも、そのためです。これはベルンシュタイン以降、変わるどころのない傾向です。

問 彼らの論点はほぼ三つに要約できます。一つは、「窮乏化法則」の否定……

向坂 「窮乏化法則」を否定して、社会主義を主張することは背理です。「貧乏」とい

う現象があるから社会主義という思想がある。彼らはもっとはっきり「資本主義を改良する」といえばいいんだ。なにも新しい言葉で化粧することはない。

問 それの一つ。二つめは「プロレタリアート独裁」の理論の否定。三つめが株式会社発展によって「所有と経営」が分離されたから、資本主義は変わったんだという主張です。

改良主義の二つの傾向

向坂 改良主義には二つの傾向がある。ようするに、資本主義が資本主義として解決しない根本的な矛盾をはじめからみないようにするか、あるいは、資本主義は変わったというか、この二つのほかに方法はない。

問 大内、新田両氏の主張はこの二つの方法の積木細工です。ベルンシュタインも顔負けの唯物史観の否定によって、資本主義の基本矛盾などはじめからありませんし、「所有と経営の分離」など、大内氏よりもずっと前にブルジョア経済学者によって主張されている問題です。つまり、科学的社会主義の核心がすべて否定されている。

向坂 だから、彼らはマルクス主義者ではない。改良主義者というにもちとお粗末だな（笑）。

資本主義の基本矛盾

問 先生は今改良主義の二つの方法をいわれ、第一に「基本矛盾（資本主義の）をはじめからみないこと」を上げたが、文書のなかでズバリそのとおりのことがいわれている。

『道』を「わからん」「わからん」といっているが……

向坂 改良主義者や社会党のことをこれまで考えたことのない人に、『道』がわかるかってんだ。

問 「もっともわからん」「理解不能だ」といっているのが『道』の次の点です。

「日本の国家独占資本主義は、国家独占資本主義一般にみられる二重の矛盾を生みだしており、それをますます強めている。その第一は、資本による支配と搾取が国家を媒介にして全社会をおおい、全国民が独占の収奪の対象となることによって強められている矛盾であり、それはひとにぎりの独占体と広汎な国民大衆との鋭い対立としてあらわれ、民主的多数派結集の物質的基礎を与えている。第二は、生産がますます社会化するにかかわらず、それが独占体によって私的に所有されていることから生れる矛盾であり、それは国家の介入によってますます激化しており、そこから生産の社会化に照応した所有の社会化、すなわち経済諸構造の社会主義改造の必要が客観的に切実なものとなっており、また国家機構を手がかりとする諸闘争の可能性を生んでいる」（『道』、三四頁、ゴチック・引用者）。

向坂 じつによくわかる文章だよ（笑）。どこがわからないというの？

問 こういっている。「これ、なんでしょうか、いっていることお分かりでしょうか。」

率直にいつてまるで分らない。生産が社会化されているのに私的に所有されているといふことから生まれる矛盾というのは何のことか。それが分からなければ『社会主義改造の必要が客観的に切実なものになっている』かどうか分かりっこないんで、論理的に成り立っていない文章じゃないかと思えます」(『労働者自主管理研究』第五号、六六頁、ゴチック・引用者)。

向坂 ケチつける連中の方がよっぽど分らん(笑)。この人は、資本主義社会には自由がなく、これにしたがう他ない一定の法則がどのように生まれ、「発展」するかを知らないといふことだ。エンゲルスは、「生産方法の社会化と所有の個人性が資本主義生産の基本矛盾だ」といっている。資本主義の基本矛盾はこれです。それが「分かん」というのでは、つける薬はないよ(笑)。

自由と必然

問 唯物史観がぜんぜん分かっていない?

向坂 そうです。ですから、彼らはマルクス主義者ではないし、社会主義革命の必然性、自由と必然の弁証法を知りません。エンゲルスは『反デューリング論』でこういっています。

「ヘーゲルは、自由と必然との関係を正しくのべた最初の人であった。彼にとっては、自由とは必然性の認識であった。『必然性が盲目であるのは、ただそれが理解されないかぎりにおいてのみである』。自由は、自然法則から夢想された独立にあるのではなく、この諸法則の認識にあり、そして、この認識と結びつけられているところの、この諸法則を計画的に特定の諸目的のために作用させる可能性にあるのである。このことは、外的自然の諸法則に関しても、人間そのものの肉体的および精神的存在を規制する諸法則に関しても当てはまる。……それゆえに、意志の自由とは、事柄の知識をもって決定をなしうる能力にほかならない。したがって、ある一定の問題点に関して、ある人間の判断が自由であればあるほど、それだけ大きな必然性をもってこの判断の内容は規定されているであろう。……かくて自由とは、自然必然性の認識にもとづいて、われわれ自身および外的自然を支配することである」(新潮社版、『マルエン選集』、第十二巻、一〇七〜八頁)。

重力の法則を知り、ニュートンの運動諸法則を知り、空気の抵抗法則等を知って、つまり自然必然性の認識があつて、われわれはロケットを打ち上げ人工衛星を飛ばすことができる。そのかぎりにおいて、われわれの自由は拡大され、自然を征服したといえる。

社会に関する法則だって同様です。資本主義社会では過剰投資をおこない、生産設備が過大になれば、生産は消費的基礎を超えて、恐慌を現出するということが、したがって、生産相互間、生産と消費のあいだに均衡調和を維持しながら社会が発展するためには、社会的生産の機構を計画的につくり上げる他なく、そのためには、生産手段を社会有にして生産を計画的におこなう以外にないことを、われわれはマルクスによって知っています。

このように社会的必然の法則を知ることによって、これに意識して適応することによ

て、社会主義社会で恐慌や失業をなくし、人間が社会そのものを支配できるようになる。これがマルクス主義です。

問 史的唯物論(唯物史観)という社会発展の法則の発見と、『資本論』における資本主義運動法則の解明によって、社会主義は科学となり、マルクス主義は唯一の科学的社会主義理論になったということですね。

向坂 そうです。マルクシズムの理論の建設・発展のうえで、マルクスとならんでエンゲルスがどんな貢献をしたかを述べることはひじょうに困難です。それほど二人の仕事は密着した協力のもとにでき上がっている。

つまり、大内、新田君達の主張は改良主義です。新聞社流に通俗的にいえば、そのまわがいを発見することは容易です。しかし、学者は学問のような体裁をつくらったり、マルクスの言葉を借用したりするから、ちょっと目にはその正体を見きわめるのに骨がおれるということはあるかもしれない。だけど、これまで述べてきたことだけで、大内君がいかにマルクシズムを知らないかは明らかでしょう。

問 しかも大内氏はマルクスの「資本主義的蓄積の一般的法則」に、「絶対的窮乏化論」だとか、『道』の革命路線に「窮乏化革命論」とかいった偏見とドグマにみちたレッテルを貼りつけて「批判した」つもりになっているのだから、学者の研究方法としてもじつに不勉強でお粗末です。

向坂 大内君なんて『資本論』をまじめにやったことはないんじゃないか。もう少し頭の良い人かと思っていたんだけどね(笑)。

古いことをいう大内君

問 大内グループの報告の焦点の第一は、「窮乏化法則」の否定です。この点についてうかがいたい。

向坂 大内君の「窮乏化法則」のとらえ方はどのようなものですか。

問 いわゆる「絶対的窮乏化論」です。さらに、「これはちょっと不思議なことですが、日本人には労働者にしてもサラリーマンにしても、まだ貧乏意識があるんですね。やっぱり長年しみついたものなのでしょう」(二三二頁)と述べているところをみると、日本に「貧乏」はなくなったと本気で考えているようです。

向坂 そりゃめっちゃだな。理論的にも実態的にもまちがいだ。大内君たちはまだ「絶対的窮乏化論」なんていってるの。一世紀前にベルンシュタインがマルクス主義を批判するためにもちだした「理論」が、「絶対的窮乏化論」です。新しがり屋にしては古いことをいうねエ(笑)。マルクス主義を批判すれば必ずこうなるという見本だよ(笑)。

くわしくはぼくの『マルクス伝』(新潮社版『マル・エン選集』第一三巻)、『マルクス経済学の基本問題』(岩波書店)、『資本主義における失業の不可避性』を読んでもらえば、全部書いているんです。

「窮乏化法則」について

問 マルクスは「窮乏化理論」、あるいは「窮乏化法則」という言葉を用いていませんね。

向坂 そうです。正確には「資本主義的蓄積の一般的法則」とよんでいる。

問 なぜ「窮乏化法則」なる言葉が使われるようになったのですか。

向坂 マルクスの反対者の側（ペルンシュタイン）からマルクスの「窮乏化理論」について批判がおこなわれ、反批判者側も不用意にマルクスの「窮乏化理論」について反批判し、主として労働者がせまい意味で貧乏になっていくのを立証しようとしたことによるものです。

問 問題は「資本主義的蓄積の一般的法則」の理解にあるということですか。

向坂 そうです。資本主義的蓄積の一般的法則はせまい意味の「窮乏化」「貧困化」を意味するものではない。それは『資本論』にいらっているように「それ自身の生産物を資本として生産する階級の側における貧困、労働苦、奴隷状態、無知、粗暴、道徳的墮落の蓄積である」（岩波文庫版、第三分冊、二三二頁）、あるいはまた「窮乏、抑圧、隷従、墮落、搾取の度が増大する」（同、四一五頁）ということですが、さらに、それと同時に「絶えず膨脹しつつ、資本主義的生産過程そのものの機構によって訓練され、結集され、組織される労働者階級の反抗」（同、四一五頁）の増大に赴かせる契機をもふくんでいるものだということが忘れられてはならないことです。このように、マルクスは「絶対的窮乏化論」などどこでも書いてはおりません。

問 資本蓄積の一般的法則では、資本の蓄積の結果、労働者、勤労諸社会層に必然的にもたらされずにはおかない「作用と反作用」が述べられているということですか。

向坂 そうです。資本主義の「発展」の弁証法です。ですから、エンゲルスが一八九一年の『エルフルト綱領』原案を批評した言葉のなかでひじょうに正確にこの問題を述べているでしょう。

問 「プロレタリアの数と困窮とがいよいよ大きくなる。これは、そんなに絶対的にいうのは正しくない。労働者の組織、彼等の不断に増大する反抗は、困窮の増大に対して出来るだけの力で、ある程度の堤防をきずき上げる。ところで生存の不安定性は確かに増大する。……」との一節ですね。

向坂 そうです。資本主義生産にこうした作用がなければ、社会主義の思想はもちろんのこと、改良主義もあらわれるわけがない。くり返し改良主義が厚化粧してあらわれざるをえないこと、このことが「窮乏化法則」が資本主義社会で貫徹していることの何よりの証明です。

「窮乏化法則」と社会主義

ですから、マルクスは『資本論』の同じところで次のようにもいらっているんです。

「それ故、労働者がヨリ多く労働し、ヨリ多く他人の富を生産し、彼らの労働の生産力が増大するにしたがって、彼らにとっては資本の価値増殖手段としての彼らの機能さえも

ますます不安定となるのはどうしてであるか、という秘密を労働者が察知するや否や、また彼ら自身の間の競争の強度が全く相対的過剰人口の圧力によって左右されるものであることを、彼らが発見するや否や、かくして彼らが労働組合等によって就業者と失業者との計画的協力を組織して、かの資本主義的生産の自然法則がかれらの階級に与える破壊的な諸結果を破砕するか、弱めるかしよとするや否や、資本とそれのおべっかつかの経済学者とは、永遠にしていれば神聖なる需要供給法則の侵害について悲鳴をあげるのである」(同、二四～五頁)。

ここに述べられていること、わが国の現状そのものでしょう。

問 資本主義的合理化ですね。

向坂 資本家階級は「合理化」という言葉で彼らのより多い利潤のために失業者を街頭に放り出すことを企て、労働者がその不安定な生存条件に抵抗し、失業者とも協力して、計画的組織的に支配階級の企てを破壊しようとするや否や、資本家とそれのおべっかやの経済学者たちが、民主主義の名をもって、また資本主義の本質、その秘密を察知した労働者に「暴力団」の名を着せて、彼らを永遠の奴隷状態におき、人間による人間の搾取制度を平安ならしめようとしています。

問 とくに社会党左派、社会主義協会、社青同、労大への攻撃がそうだ。

「窮乏化法則」を要約していえばどうでしょうか。

向坂 労働者階級は、資本主義的蓄積の一般的法則をこうして身体で知るといふことだ。彼らは資本蓄積の発展が、つねに自己の犠牲において進行することと同時に、この法則が訓練され、結集され、組織される契機をもふくむことを認識し、この法則に適応し、これを利用することによって、訓練され、結集され、組織される反抗の増大を実現します。このように労働者階級は、自らを主体として確立し、したがって自由なる反資本主義的行為者となるわけです。いわゆる「窮乏化」の必然的作用があつて、はじめて、反資本主義、さらに社会主義の行為者となる。大内君たちの主張からは社会主義の必然性は生まれてこない。したがって、必然的に労資協調とならざるをえません。

ユーロ・コムニズムはミニスカートみたいなもの

問 大内氏たちには階級および階級闘争、そして搾取の概念はありません。したがって平和革命は「議會をとおした話し合い」となり、「プロレタリアート独裁」の理論が放棄されるのもこれまた必然です。他方、「プロレタリアート独裁」については流行の「ユーロコムニズム」との関係もあるのだろうか、「見直し」「再検討」の声が世界的に強まっている事情もある。そこで、「プロレタリアート独裁」の理論についても先生のお考えをうかがいたい。

向坂 このあいだある人がこういっていた。

「ユーロ・コムニズムはミニ・スカートみたいなものだ」と(笑)。

これじつにうまいいな。ぼくも笑ったんだ(笑)。マルクスズムで一般ジャーナ

リズムがもち上げるときには警戒することが必要なんです。「ユーロ・コミュニズム」というのはその一番いい例だ。

問 日本共産党も「プロ独裁」という言葉を削除してしまったが。

向坂 共産党がまちがっているよ。この言葉は正しい。

ブルジョアジーは「プロ独裁」を恐怖する

問 共産党宣言から一三〇年、世界のブルジョアたちは、科学的社会主義の理論からプロレタリアートの独裁の理論とプロレタリア国際主義の理論を骨抜きにしようと躍起の有り様だが。

向坂 こわいからだよ。今にはじまったことではない。一八九一年にエンゲルスは「ドイツの俗物は、プロレタリアートの独裁という言葉について、またもや近頃、有益な驚きにおちいつている。さて紳士諸君、諸君は、この独裁が、どのように見えるかが知りたいだろうか？ パリ・コムミュンを見よ！ それがプロレタリアートの独裁であった」と述べている。つまり、資本家階級や彼らにおべっかを使っている連中には、この民主主義の現実がこわいということです。これは階級闘争の本質にかかわる問題です。

問 レーニン、たんに階級闘争だけでなく、プロレタリア階級の独裁を認めるかどうか、マルクス主義者の不可欠の条件だといっている。

向坂 マルクス自身がそういっているんです。ヴァイデマイヤー宛の手紙のなかで、プロレタリア階級の独裁こそが、「自分が新たにしたこと」であるといっている。

「プロ独裁」は階級闘争の必然的結果

「ぼくについていえば、近代社会における諸階級の存在やその階級間の闘争を発見したという功績は、ぼくのものではない。ぼくよりずっと以前に、ブルジョア歴史家たちはこの階級闘争の歴史的発展を叙述し、ブルジョア経済学者たちは階級的分析をなしていた。ぼくが新たにしたことは、一、階級の存在は、生産の特定の歴史的発展段階に結ばれているにすぎないこと、二、階級闘争は必然的にプロレタリア階級の独裁へ導くこと、三、この独裁それ自身はいっさいの階級の廃止への、階級のない社会への過渡をなすにすぎないことを証明したことである」

マルクスは、プロレタリアートの独裁は、搾取階級と被搾取階級の階級闘争の必然的な結果である、といっている。これがたいへん大事です。労働者階級は、資本主義社会の発展の必然的な結果として、闘争しないで自らの生活と文化を守ることはできません。つまり、労働者階級は、その抬頭を抑え、どこまでも資本主義社会を守ろうとする資本家階級が根絶されるまで、たたかう以外に方法がありません。われわれの結合され組織された力を用いるのが、プロレタリアートの独裁です。ですから、一部の俗物が独裁の本質を忘れ、言葉を代えたり削除して、俗物感情に訴えるのはまちがいです。『共産党宣言』でいっているだろう。「共産主義者は、自分の見解や意図を秘密にすることを軽べつする」と。これ

を労働者階級や農民、その他の中間的諸社会層に理解させることが重要です。

問 プロレタリアートの独裁を「少数者の独裁」と歪める者が多いが。

向坂 もっとマルクシズムを真剣に勉強することだ。エンゲルスはブランキを批判して「ブランキが、いかなる革命をも革命的な少数の奇襲と解していたことから、おのずから成功の後に独裁の必要が生じる。しかもこの独裁は、良く見きわめるならば、全革命的階級の、すなわちプロレタリア階級の独裁ではなく、奇襲を行った少数者の、しかも彼ら自身もまた、あらかじめ一人、あるいは二、三の人たちの独裁の下で組織されている少数者の独裁なのである」といっている。これにつききているよ。ロシア革命も、少数者のそれではなく、ロシア共産主義者がソビエトで多数を占めたとき、レーニンは政権獲得の行動を指導しているんだ。

問 平和革命という形態ではさきの「ユーロ・コミュニズム」ではないが、プロレタリアート独裁の理論は「再検討」を要するとの意見も目立つが。

向坂 そんなことはない。平和革命といえども階級闘争です。階級闘争なのだからプロレタリア階級独裁にいたるのは必然だ。この思想にこだわって、これを言葉でごまかそうとするのは、マルクシズムの理論からはなれていく証拠です。

マルクスは正しい

問 大内氏は「所有権」論など学者らしいもったいぶった言い回しで、マルクスを批判しています。

向坂 ぼくはマルクスに批判をもったことのない男です。(笑)疑問を感じれば、ぼくがまちがっていると思つて、マルクスのいわんとすることをくり返し考える。今までマルクスがまちがっていたことはなかったよ(笑)。

問 つまり、帝国主義の段階になって「所有と経営」が分離した。したがって、マルクスの資本と賃労働といった敵対的階級対立はすでに「消滅」と結論され、マルクス主義のこれまたもつとも重要な理論的規定、資本家的私有にもとづく生産手段の収奪、社会主義的国有化が否定されています。

向坂 それも古い理論だな。大内君が発明したものじゃない。ブルジョアの経済学者が昔から言っていることです。(笑)ぼくは、この理論への批判をすでに書いてるんだ。

問 『日本独占資本』についてですね。これは、『マルクス経済学の基本問題』(岩波書店)に収められている。

向坂 そうです。ずっと以前に書いてるだろう(笑)。それを読んでくれればいいよ。大内君が他にどういふことをいっているかしらんが、だいたいこういうことではないんじやないか。大内君はマルシストでもなければ、社会黨員でもない。だから、科学的社会主義や『道』の革命的精神などわかるわけがありませんから。

問 ご多忙のところありがとうございます。

「中産階級化」という名の思想攻撃

「おとぎ話のように富を蓄積する」とのたとえがある。まるでわが国の独占資本のためにあるかのようである。三井、三菱、住友といった旧財閥系資本、鉄鋼、自動車、電機、機械の諸企業は生産高、売上高を数十倍、数百倍に伸ばしている。会社の資産はそれこそ「おとぎ話」のようにふくれ上がった。九月一八日、公正取引委員会は「わが国における経済力集中の実態について」（五十二年度、金融業を除く）の調査結果を発表したが、それによると、①総資産上位百社（国内の全法人企業数は一三五万社・率にすれば〇・〇〇七％）の総資産集中度は二二・六％、②製造業上位百社の総資産集中度は三四・八％、③全企業中、各業種で上位十社の総資産が全体の五〇％を超えるのは、三一業種のうち七業種に達するといわれる。

なんと一方の極に富が蓄積されていることか。このように独占資本が肥え太るとともに、学者やジャーナリスト、ブルジョア政治家たち、そしてブルジョアジーからおおごれをちようだいできる地位に居る人びとは、「一極における富の蓄積は、同時に対極における、すなわちそれ自身の生産物を資本として生産する階級の側における貧困、労働苦、奴隷状態、無知、粗暴、道徳的墮落の蓄積である」と、マルクスがいう「資本主義的蓄積の一般法則」、その「階級的性格」には目をつぶる。労働者階級の実態を見ようとしなからである。

二

この一番の典型は、総理府が昭和三三年から毎年おこなっている「国民生活に関する世論調査」である。去る八月二七日、昭和五四年五月の調査結果が発表されたが、各紙は「暮らしに満足」67％——九割が中流意識」と報じている。

「国民の七割が、自分の現在の生活に『充実感』を持ち、約九割が自分の生活態度を中流とみている——（その結果）少なくとも生活意識の上では『ゆとりある暮らし』を送っている日本人像が浮かんだ」（読売、八・二七）

大内、新田両先生がお喜びになるだろう結果である。「窮乏化法則なんて古いよ」、「国民の九〇％が中流意識をもっているのが、ここでも実証されているのではないか」と。

この「世論調査」はどのような内容だったのだろうか。調査票にみる質問は次のとおりである。

「Q5 お宅の生活態度は、世間一般からみて、この中のどれに入りますか。(ア) 上 (イ) 中の上 (ウ) 中の中 (エ) 中の下 (オ) 下 不明」

これにたいして回答は上〇・六％、中の上八・五％、中の中六〇・六％、中の下二二・二％、下四・八％、不明三・三％というもので、調査結果は次のように解説している。

「『自分の生活態度が、世間一般からみて、どの程度のところにあるか』と対しては、『中の中』が六一％を占めている。これに『中の上』の八％、『中の下』の二二％をあわせると、『中』は九一％にのぼり、長期的にみると、『中』意識が大多数を

占める傾向は、ほとんど変化していない。

この調査の意味するところは、ようするに「世間一般からみて」、自分の生活に中くらいであると思っている人が九割を占めているということにすぎない。「生活態度が、世間一般からみて、どの程度のところにあると思っているか」と問われれば、十人中九人までが、「みんなと同じ程度―それくらい賃金は安いのに―だから、中程度」くらいかな」と答えるのは当然のことであろう。しかも、大内先生、新田先生にはたいへんご不満のことだろうが、わが国の勤労大衆には「上みりゃきりない、下みりゃきりない。ほどほどに生きるのが最高」との「貧乏意識」がある。この「貧乏意識」のあらわれが中の中六一%という数字であろうからである。

三

これをとらえて、「国民の九〇%は中産階級」化しているといわれる。「ウサギ小屋」でも家をもっているじゃないか、財形貯蓄も進んでいる。これが何よりの証明だと。

しかし、こうした宣伝はウソである。中産階級とは生産手段を所有するがみずからも労働し、ときには少数の他の労働力を雇い入れる小零細経営者や農民、あるいは小金利生活や自由職業者、高給管理職等を意味するからである。「九一%」の人たちは夫、あるいは子供が失業という「業」をもったときにどのように生活するのだろうか。彼らのほとんど大多数が労働力を売って生きている労働者階級に属することは、左の階級構成表からも明らかではないだろうか。

階級構成表

	年	
	一九六〇年	一九七五年
有業者総数	四三、六〇〇千人	一〇〇%
労働者	二四、〇〇〇	五五・〇
農・漁民	一一、九〇〇	二九・六
小企業者	五、五〇〇	一二・六
資本家	一六〇	〇・四
うち独占資本家	五	〇・〇二
その他 (自由業・地主)	一、〇四〇	二・四
		一、一〇〇
		二・一

※ 有業者とは、一五歳以上の就業労働力をさしています。

※※ 小企業者とは一〜四九人の他人の労働力を搾取する企業家

※※※ 資本家とは五〇人以上の労働力を搾取する企業家であり、独占資本家とは一千人以上の労働者を雇用する企業の「重役」「経営者」をさしている。

〈資料〉

高沢寅男氏（東京五区）非推せんの経過と全電通の対応

九月六日付の朝日は「社会主義協会向坂派と根深い対立をつづけている全電通は、東京五区および千葉一区の社会主義協会向坂派幹部候補への推せんを拒否している」と伝え、九月一四付の同紙は「全電通は十三日、東京五区での態度について本部と東京地本三役が協議し①社会党公認候補は支持しない②よりましな候補を支援する③公明党と選挙協力はない、との三点を確認した。これは『実質的には公明党候補への支援を組織指導をする』（全電通幹部）ことだ。……』と報じた。

それによれば、全電通労組は九月一四日付『全電通』号外を発行し高沢寅男氏（東京五区非推せんの経過と全電通の態度）を明らかにしている。したがって、この号外を資料として掲載しておきたい。紙幅の関係で解説を付せないが、全電通労組の「選別支持」問題の本質については、第二九号七八年八月二日号でふれているので同号を参照していただきたい。

最近のマスコミで『社会主義協会向坂派と根深い対立をつづけている全電通は、東京五区および千葉一区の社会主義協会向坂派幹部候補への推せんを拒否している』九月六日付朝日』などの報道が行なわれています。

またこの記事が、あたかも事実であるかのようにとらえて日本共産党が悪用し、組合員に混乱を招くためのピラを、職場などに配布しています。いわく「ここまで落ちぶれた特定政党支持の誤り」といったもので、全電通の全国大会決定を無視し、興味本位をよそおい、きわめて意図的で悪質な宣伝を行なっています。

私たち全電通は、労働組合の任務として政治機能をもつことは当然であり、その目的を達成するために社会党と支持協力関係を結んでいるのです。

そのことと、国政選挙、自治体選挙における候補の推せん行為とは別の問題です。日本社会党の候補者だからといって、無条件で推せんすることにはならないということです。

労働組合が推せんする以上、その労働組合の方針を理解し、相互信頼が前提となる候補者でなければ、組合員に責任をもった推せん行為にならないからです。しかもそれは、大衆団体である労働組合として当然のあり方です。

このような立場にたつて全電通は、従来から候補者を推せんする際は、本人の政治所信、全電通の方針を支持してもらえるのかどうかなど、文書によって示してもらってきているのです。（組織内候補者の場合は議決機関で一票投票までしています）

したがって、社会主義協会向坂派だからと、推せんを拒否している事実はなくありません。日本共産党のピラがいう東京五区の高沢寅男氏の場合は、前述した原則的立場を否定されるため、残念ながら推せんできない状態になっています。

この原則的前提条件を抜きに勝手な解釈で組織に混乱を持ち込む行動——例えば、ピラやロコミによって、日本共産党や社会主義協会向坂派、社青同向坂派、その他のセクトが、全電通の職場や組合員の家庭に介入する事態が予測されます。

したがって中央本部は、千葉一区の木原実氏、東京五区の高沢寅男氏は推せんできないとの決定をしました。以下、高沢寅男氏をなぜ推せんできなかったかを中心に、その理由と事実経過を明らかにしますので、組合員の皆さんのご理解を得たいと思います。

なお、具体的取扱いの経過は、中央本部ならびに東京、関東両地方本部と密接に連絡を

とりながら対処したものです。

今日に至る経過のあらまし

一、大会決定と対応方針

1、第三一回定期全国大会決定

(3) 選挙闘争における推せんのとりあつかいについて

① 選挙闘争にあたっては、社会党の公認候補を支持することとしますが、第三〇回定期全国大会決定の方針をふまえ、全電通に対し、不当な支配介入を加えたり敵対的行動をとるものについては、支持しないこととします。

② そのため、組織の意思として候補者に対し、原則として国政選挙は中央本部、自治体選挙では地方本部の責任において、当該候補者の政治所信を求める質問書などを手交し、その結果を組織的に明確にし、支持の可否を決めることとします。

③ そのとりくみの中で支持する候補者がゼロになる選挙区については、その扱いについて、地本委員長会議でケースバイケースで決めることとします。

その場合の考え方は、政治次元で決めるのではなく、日常の地域における闘いや活動を通じて、他の労組や同じ見解にたつ民主団体を含めて、合意出来る候補者を選定し、その候補者との間で革新政策協定を結び、その方針に基づき支持することとします。

2、この決定に基づき、八月三〇日〜三十一日に開催した第一回全国委員長会議は、意思統一を行ない各候補と対応を行なうこととした。

二、東京地本は、前記の方針に基づき、九月二十九日社会党としての東京一一選挙区の候補決定を受け、各候補との話し合いを行なった。

1、話し合いを行なうにあたっての前提条件、話し合いにあたっては、第一回地方委員長会議の意思統一及び全電通発第四四号に基づき、機械的、画一的に文書によって対応するのでなく、全電通の大会決定方針の真意を説明し、それに対する各候補の見解を求め、それらを参考にして支部選対委員長会議で推せん可否を行なうとの立場で対応のこととした。

2、話し合いにあたって、全電通としての説明の要旨は次のとおり。

1、全電通は、数年前から全国大会妨害問題をはじめ幾多の問題で、社会主義協会向坂派及び社青同(向坂派)から組織攻撃を受けている。

2、このような実態から全国大会では、組織防衛の立場から、全電通に対し、不当な支配介入を加えたり敵対行動をとるものについては、支持しないことを決定した。

3、ただしこのことは、一部にいわれているような、社会主義協会会員をもつてのみ判別するような選別支持ではなく、あくまでも全電通の政治方針なり、運動方針を支持していただける人を推せんすることである。

三、東京十一選挙区社会党候補との対応結果

1、前記により、各候補者と話し合いの結果、五区高沢寅男氏を除いて、一致点に達した。

2、高沢寅男氏との応待内容は次のとおり。

全電通の前記説明に対し、

高沢 1、前日も、一一名が一括して推せんを受けた。今回も都本部が労組に対し一括推せんを要請すると聞いており結構と考えている。従って都本部の方針でお願いしたい。

2、政党と労働組合は支持協力関係にあるものであり、活動の領域もある。従って私自身もそのような立場にたつべきだと考える。

全電通 支持協力というが、信頼関係が前提となるべきであろう。社会主義協会向坂派、

同社青同からの組織攻撃もあり、関係地域を中心として多くの活動家、組合員には、推せんし選挙することは出来ないという気持が強いが、どのように考えているのか。

高沢 1、社会党の公認候補を推せんしないということか。九分会共闘なり合理化路線の問題は組合内部の問題であらう。党の方針は四一大会で決っており、その方針で対処している。

2、絶縁するようなことはして欲しくない。だとすればいい分がある。

全電通 党方針で対処しているというが、党内の一部グループが全電通に対する組織攻撃をくり返している。全電通は社会党の支持団体である。それゆえに、社会党の強化・

改革にも真摯にとりくんでいる。しかし、下請機関ではないはずであり、労働組合が自らの意思として推せん候補を決めることは当然のことといえよう。従って社会党候補全員でなく、組織攻撃などを行なった人達を推せんできないというのが全電通の大会決定である。

高沢 社会主義協会というが協会にも事務局長なり他の分担もある。認識の違いからいろいろ意見があるのではないか。

全電通 全電通の今回の方針は組織防衛の立場からである。

高沢 私が何をしたというのか。豊島支部の九分会問題などは内部問題ではないか。

全電通 とんでもない。全電通とすれば、高沢氏と社会主義協会向坂派との関係、同協会の全電通への攻撃など、具体的事例をあげて論議するのにはやぶさかではない。しかし、あなたと論議すれば、今日の話し合いの経過から判断して、一段とエスカレートし、

結局全電通の方針を支持されるとの一致点を見ることが不可能と考えるがどうか。

高沢 その通り。都本部一括推せんを頼んでいるので、それにもとづいて欲しい。

四、高沢氏との対応の結果に対する地本の見解

1、高沢氏はわれわれの対応においても全電通が労働組合として組織防衛の立場から深刻にとらえているとの認識が感じられ、社会党候補ゆえに推せんするのが当然といった考えがあるといえる。

さらに全電通に対する、社会主義協会向坂派、同社青同の例をあげても、それは労働組合内部の問題であるとか、「高沢が何をしたというのか」というような開き直りの態度であり、全電通の方針に理解を求めることは不可能と判断する。

また高沢氏は、前回の選挙に際し、全電通の方針を支持するとの意思表明を行なったにもかかわらず、その後の社会主義協会内における発言、党改革論議をめぐる主張、さらには今回の対応内容からして仮りに推せんした場合、全電通にとつて組織的混乱は生じ得てもプラスになるとは考えられない。したがって、東京地本は高沢氏を推せんしないこととする。

2、今後の具体的対応について次のとおりとする。

(1)、都本部より、推せん要請がなされた場合、前記の態度にもとづき一括推せんをおこなわず、全電通としての意思表示をおこなう。

(2)、発表の時期、方法などについては、中央本部との連携のもとに、全国的な状況とも関連させつつ、慎重に扱うこととし、本部の指導を要請する。

(3)、推せんしないことよって生じる、いわゆる空白選挙区における対応については、中央本部とも相談し、早急に対応のこととする。

(4)、東京地方的には、候補者との対応は「質問書」によらず、今回の話し合いの内容を推せん決定の判断にする。

さらに、推せん決定後における労選などのかかわりあいについては、組織内候補（鈴木強）、東京地方重点候補のとりくみを配慮しつつ、別途支部選対委員長会議で検討する。（『全電通』号外、一九七九・九・一四）

緊急号外（十月一日発行）定価五〇〇円（郵送含）

『道』批判者たちへの反批判

『道』と科学的社会主義の擁護

大内力氏ら党外の学者たちが「修正されたマルクス主義」の立場から、社会党の憲法ともいふべき『日本における社会主義への道』を全面的に批判する文書を発表しました。この文書は、一九七八年、社会党にはふさわしくないと「参考文書」にタナ上げされた「社会主義の構想」を前提にしたものです。

私たちは、氏の「新しい社会主義」分権的・自主管理型社会主義論は、社会党の基本路線を真に正しく補強し発展させるものではなく、まったく反対に、科学的社会主義の一般的基本原則を真向かう否定し、したがってまた、科学的社会主義を日本の情勢に基本的に正しく適用した社会党の基本路線「道」を真向から事実上否定する「社会主義」論だとの立場から、『道』の擁護のために、とりわけあえて増刊号「社会党「中期経済政策（第一次試案）批判」をだして、大内氏らの「新しい社会主義」論、その具体化といつてよい「中期経済政策（案）」にたいして、基本的な批判をくり抜けてきました。

われわれの批判が正しかったことは、太陽が東から上り西に沈むように明らかです。大内氏たちはしばしばマルクスや「資本論」を口にします。しかし、彼らの主張はマルクス主義とは縁もゆかりもありません。彼らが、資本主義的蓄積の一般的法則（「窮乏化法則」）を否定することによって、社会主義の必然性をまったく知らないからであり、社会主義の基本原則である、いわゆる「プロ独裁」の理論、社会主義的計画経済を否定し去っているからです。したがって、「これは学者のたわ言にすぎない」と放置することは、絶対に許されません。マルクス主義の思想をめぐる問題だからです。そこで「中期経済政策（第一次試案）批判」の続編ともいう号外『「道」批判者たちへの反批判』を発行することにしました。内容は次のとおりです。ぜひご購入をお願いします。

内容

序章 発行にあたって

第一章 向坂逸郎氏に聞く——マルクス・レーニン主義とは何か

第二章 高沢寅男氏に聞く——『道』は闘争の歴史そのもの

第三章 階級矛盾なき資本主義論（大内力氏の「現代資本主義論」批判）

第四章 「窮乏化法則」と大内力氏らの頭脳の「窮乏化」

第五章 「プロ独裁」は階級闘争の必然的結果

第六章 「字野理論」批判——大内力氏の理論と思想の基本的性格と特徴

補論 現代のドン・キホーテ——馬場宏二氏という御仁

価格

一部五〇〇円（郵送費含）。ただし二〇部以上五〇部までは一部四五〇円、五〇部以上ご注文の方は一部四〇〇円、としその分還元させていただきます。

注文先

東京都千代田区飯田橋四の四の八 朝日ビル四〇一号室 社会通信社／郵便振替東京0の58431、労金・東京労金本店50234

申 込 書

部 数 部 代 金

送付先・電話・貴団体名または氏名

円を添えて申し込みます。